

令和 8 年度第 1 回 飯南町教育委員会議事録	
1. 開会日時	令和 8 年 4 月 2 8 日（火）9：00 開会 10：45 閉会
2. 開会場所	飯南町役場 会議室
3. 出欠状況	○出席者 教育長：大谷哲也 教育委員：烏田勝信、熊谷高暢、源知香子、三島智恵 （事務局）次長：石飛幹祐、指導主事：郷原秀文 社会教育主事：難波社教主事
大谷教育長	令和 8 年度の初めての教育委員会となります。本年度もよろしくお願いいたします。4 月 2 日には着任式を行いました。9 日には小中高、それぞれの学校で入学式が行われ各学校とも新入生を迎えました。各学校とも順調にスタートしていると聞いており安心しております。先般、来島小学校でロードレースがあり、昨年から学校運営協議会の協力で子どもたちが町の中を走る形にされていますが、地域外の方も応援に来ておられてにぎやかでした。コミスクの一つの成果であり、子どもたちを地域で育てていこうという気持ちが感じられるいい大会でした。1 学期は小学校の修学旅行や陸上大会、中学総体など行事がめじろ押しとなりますが教育委員会も環境を整えていきたいと考えています。
石飛次長	（令和 7 年度第 1 4 回教育委員会議事録について要旨説明）
大谷教育長	このことについて、何かご質問などはございますか。
熊谷委員	頓原中学校でのロードレースも町内のコースに変えられていて、良いことだと思っています。コース内に 2 0 か所もチェックポイントを設けられており、手厚いなと感じています。
大谷教育長	それでは議事に移ります。議案第 1 号をお願いします。
石飛次長	（議案第 1 号 令和 8 年度小中学校主任等の発令について資料に基づき説明）
大谷教育長	議案第 1 号について説明がありましたがご質問等がありますでし

	ようか。
熊谷委員	具申書があるが教育委員会で辞令を作成しますか。
石飛次長	辞令の作成は行っていないですが、本承認をもって認められたということをお伝えしています。
大谷教育長	昨年、烏田委員からありました司書教諭のことについては、今年は全ての学校で配置があるということでしょうか。
石飛次長	はい、本年は全ての学校に発令されています。
大谷教育長	それでは、この体制で発令させていただきます。
大谷教育長	それでは次に議案第2号について説明してください。
石飛次長	（議案第2号 令和8年度小中学校兼職辞令の内申について資料に基づき説明）
大谷教育長	議案第2号について、お気づきの点等あればお願いいたします。
熊谷委員	小学校の先生は中学校に行って授業されるということはないでしょうが、こういった形での関わりとして兼務がされているのでしょうか。
郷原指導主事	T Tという形で、小学校の先生が中学校で連携授業をされているという状況です。学校の現状に合わせて兼務具申がされている状況です。
熊谷委員	保小中高一貫なので、保育所と小学校間で、先生の行き来があるのか、今後の方向性があるのかということなどはいかがでしょうか。
郷原指導主事	小学校と幼児教育施設との間では現在、かけはしプログラムをつくるという取り組みがされています。保育所の先生と小学校の先生が一緒になって年間カリキュラムを考えるということが連携という

	ところですが兼務発令については特別に出すということはありません。
大谷教育長	それでは、よろしいでしょうか、承認ということをお願いいたします。次に議案第３号について説明してください。
石飛次長	（議案第３号 飯南町社会教育委員の選任について説明）
大谷教育長	議案第３号について説明させていただきました。こちらについてご質問等がありますでしょうか。 それでは第３号については承認ということをお願いいたします。
大谷教育長	それでは次に議案第４号について説明してください。
石飛次長	（議案第４号 飯南町公民館協議会委員の選任について説明）
大谷教育長	議案第４号について説明がありましたが、質問等をお願いいたします。
熊谷委員	新任とありますが、昨年の時点で２年任期として承認している方ではありませんか。
石飛次長	失礼いたしました、昨年の時点で承認をいただいている方ばかりでしたので改めて承認をいただく必要がございましたので、この議案は取り下げさせていただきたく存じます。
大谷教育長	議案第４号は昨年、承認していただいているということです。失礼いたしました。それでは次に議案第５号について説明してください。
石飛次長	（議案第５号 小・中学校学校運営協議会委員の委嘱について説明）
大谷教育長	説明が終わりました。多くの方が新任ということでございます、ご質問をお願いいたします。
大谷教育長	選考される過程で説明しておいた方が良かったのであればお願いします。

難波社教主事	赤来中は4年目となります、今年度から新たに3年ということで選考しました。これまでは館長さん方が入っていましたが、これからは主事さんが入ることになりました。コミスクとしてはその方が動きが良くなるであろうとのことからです。志々小学校につきましては、統合がありますので、今年から1年間の委員を定めています。 その他の4校は令和6年からスタートしましたので、本年度末のところで委員の選考をします。
大谷教育長	ありがとうございました。選考の過程の説明をしていただきました。委員の皆さんからお願いいたします。
烏田委員	学校の方からの感想、受け止めはいかがですか。
難波社教主事	学校評価でも学校、家庭、地域の連携を評価していただく項目がありますが、概ね好評価が出ています。委員さんによる事業評価についても、連携がうまく進んでいる評価でした。自分自身の評価としてももう少し関わることで良かったという評価でした。連携は進んでいるが、町全体へ広がっているかという課題としてあげられると思います。
烏田委員	提言、改善点のような意見はありますか。
難波社教主事	もっと学校と話し合える時間、会の時だけではなく気兼ねなく学校に足を運んでというような連携ができるといいなという意見もありました。頓原小ではコミスクの委員さんがふらっと立ち寄ってもらえるコミスクルームのような空き教室を作っておられます。
烏田委員	地域の生の声が学校に届きにくい傾向は昔からありますね。地域の皆さんも本音で運営に関わっていただけると良いと思います。
難波社教主事	以前の学校評価委員会とは違うということを委員さんにも理解してもらえたらと思います。
大谷教育長	コミスクを立ち上げて4年目になりますが評価委員会と異なるのは評論家かプレイヤーかというところだと思います。

烏田委員	町内外問わず、好事例が蓄積されて広まっていくといいと思います。
大谷教育長	コミスク便りを委員の皆さん後ほどお配りいたします。
熊谷委員	頓原中の運営委員をしています。現在、委員は9名で、積極的に参加しようという方ばかりですが、委員の皆さんの中でも、なかなか都合がつかず出られない日があるようです。委員数を増やして発令して関わりを増やしてベースを広げた方がいいのではないかと思います。
難波社教主事	予算を伴うことでもありますので、概ね10名前後のところで調整をしているところです。
烏田委員	会の開催は夜でしょうか、出やすいのは昼なのでしょうか。
難波社教主事	ほぼ、昼間にやっています。 お勤めの方は、昼間は出にくいとかあるのでしょうか。頓原の出席状況を聞きましたが、会は年に3回なのに出られない方があるので、どうかなと思いました。 年間計画をお示しし、開催日の1ヶ月前にはご案内はしています。委員さんには自覚を持って出席していただきたいと思いますが、お勤めの関係でどうしても休めない場合もあるかと思います。 校長や教頭先生だけではなく、他の先生方とコミュニケーションをとる場合がありますので、昼間の方が良いかと思います。 教職員とコミュニケーションをとる時間を設けている学校もあります。 議案第5号についてはこれで承認いただくということでお願いいたします。 次に議案第6号についてお願いいたします。
大谷教育長	
大谷教育長	

石飛次長	(議案第 6 号 要保護・準要保護児童生徒援助費の認定について説明)
大谷教育長	議案第 6 号について質疑がありましたらお願い致します。
熊谷委員	児童扶養手当、非課税世帯の方を係数で表した場合、基準の係数より低くなるものでしょうか。
石飛次長	これらの方については係数を出したことはありませんが、非課税世帯の方は恐らく、必ず低くなると思います。児童扶養手当の方に関しては、確定的なことはわかりません。児童扶養手当を受給していること自体が認定要件になりますので、計算はしていません。
熊谷委員	事由がその他の方は申請しても児童扶養手当が出ない方ということになりますね。
石飛次長	そうです、申請自体をされていない方もおられるかと思います。
三島委員	児童扶養手当の認定基準があり所得が基準を超えると児童扶養手当が停止になります。
大谷教育長	議案第 6 号についてはよろしいでしょうか。 (異議なし)
大谷教育長	それでは続いて報告事項に入ります。 報告第 1 号について説明してください。
石飛次長	(報告第 1 号 令和 8 年度小中学校学級担任等について資料に基づき説明)
熊谷委員	頓原中学校は 2 組 3 組とあり、学年が表記されていなく、赤来中学校は表記されていますが、どういう状況でしょうか。また、赤来中学校は 1 年で言うと 3 組がなく、2 年で言うと 2 組がないですがこちらもどういう風に受け止めたらいいか教えてください。

郷原指導主事	特別に学級名をこれに、という決まりはなく、学校で決められています。ですので特別支援学級をどう扱うかということになります。赤来中については、自情、知的、難聴学級があります、在籍の児童がいるかないかによって、3組がなかったり、2組がなかったりということになります。特別支援学級は年によって在籍があったりなかったりしますので、それによってそれぞれ学校で名称をつけています。
熊谷委員	表記としてはわかりにくい部分もあるという気がします。飯南町という小規模な町で、学校の数も多くない中で、特別支援学級の名前が違うことについては、各学校それぞれということでしたが、こうした状況はメリット、デメリットを考えた場合どうなのでしょう。私は統一した形の方が運営もしやすいし良いのではないかと思います。その辺は検討されたことがありますか。先生としてはどう思われますか。
郷原指導主事	それぞれの学校で理解されていれば良いのではないかと思います。学校の中での理解があれば良いかと思います。
大谷教育長	学年のくくりというより特性による組が優先するという、また、子どもさんの立場からすると慣れ親しんだものなので、帰るのは難しいと察します。
大谷教育長	本年度はこうした体制でスタートさせていただきます。よろしくお願いします。
大谷教育長	それでは次に飯南町社会教育計画の策定報告についてお願いいたします。
難波社教主事	(飯南町社会教育計画について別添資料により説明) これについては、よろしいでしょうか。ご質問などあればお願いいたします。
源委員	世代を超えた交流はだんだん少なくなっている、増えていくことはいいと思います。子どもがいろんな世代の方と関わってほしいと思います。
烏田委員	施策1の「オンライン学習など学びたいときに学べるスタイルを

熊谷委員	広めます」下のところで「オンライン相談など行い」とありますが今 はないですね。
難波社教主事	オンライン相談というのは、保健福祉課で以前はやっておられた かもしれませんが、状況は少しわかりかねますが。
三島委員	保健師さんの方でやっておられたかもしれません。
烏田委員	子育てに関する電話相談をやっておられた自治体があったかと思 いますが飯南町でやろうとすると、人員が必要になるだろうと思 います。掲載されているということなのでこれから取り組むというこ と理解しています。
難波社教主事	これからこういう方向で動いていきましょうということもありま す。これまでの取り組みでもあったかとは思いますが。
三島委員	こういう風には書いてはありますが、オンラインというわけではな く、これまでは訪問してというようなこと、現在はラインなどによる きっかけということはありません。
難波社教主事	島根県がやっているようなオンライン相談の情報は発信していけ ると思います。
烏田委員	オンライン学習、動画配信などの方向性はあるのでしょうか。
難波社教主事	公民館がやっているくにびき学園の研修を一緒に聞きますかとい うような取り組みもあります。一緒に見て学びませんか、というよ うな学習機会があることを広く周知していきます。
熊谷委員	計画は町のホームページには掲載されますか。
難波社教主事	はい、今後掲載します。
大谷教育長	教育委員の皆様には公民館視察などをしていただいていますので 公民館の活動についてはご存じのところですが、この計画により、一 層活動が盛んになるといいと考えています。

大谷教育長	それでは、その他の日程についてお願いいたします。
石飛次長	(日程についてレジュメにより説明)
大谷教育長	準備した議題は以上です。
熊谷委員	2点お伺いします。チャット GPT のことが新聞に掲載されていましたが、町内学校における AI の活用についてはどのような状況になっていますか。学校現場での AI との関わりはどのようなになっているのか、現状と今後の方向性について教えてください。もう一点は小学 6 年生と中学 3 年生の学力テストがペーパーでは最後になります、来年からは全てタブレットになるとあったのですが、それに対応できるくらい全国の学校が進んでいますか。飯南町の学校は大丈夫だと思いますが、状況はいかがでしょうか。
郷原指導主事	まず AI 利用についてですが、昨年度は児童生徒の利用はなし、ということで話をしています。教職員は業務の効率化や指導案の作成などに積極的に使用を許可しています。児童生徒が AI に頼って課題をこなすということはないよう指導しています。方向性としては、ここ数年、変化をしてきていて次期指導要領論点整理にも AI の活用が入ってきていますので、その利用の仕方については考えないと、大きなリスクを伴っていることは間違えないと思います。そうしたことについては研修会を通じてお伝えしているところです。一番は教員が児童生徒に直接、目的やリスク面をしっかりとって関わることが大事なと思います。授業の場面での活用は今後出てくると思います。2点目の全学調査の件ですが、既に2年前から CBT に移行することを示しています。昨年度から中学校の理科は CBT となっています。今年度は英語をオンラインで行います。小学校は意識調査の部分がタブレットで行っています。CBT 化については飯南町の場合、早い段階から取り組んでいますが、使い慣れていないと、テストの際にマイナスになるので日頃からの積み重ねが大事ということを学校に指導しています。
熊谷委員	将来的には高校入試もタブレットによる試験になっていきますか。

郷原指導主事	そこはなんともいえませんが、どういう力を求めるかによって試験の形も変わってくると思います。ベースになるのは読むこと、書くことというのは間違えありませんので、そこは外せないと思います。
烏田委員	川柳の大会や読書感想文も Ai が作ったものか、そうでないのかわからない事例が出てきて、今年からなくなるということです。
源委員	現状に逆行するかもしれませんが、達人テストをやってみて、デジタルよりアナログの形をつくる、触るということを低学年のうちはしっかりされた方が良いと感じます。
烏田委員	鉛筆を持って書かないと体に入らないと思います。
源委員	どこかの学校の視察の際に、算数の授業の問題で、回答をどれか押せば簡単にできますが、実際にはわかっていないのではないかという疑問があります。小さいうちは、形の認識や書いたり折ったりということが大事なではないかと感じました。
三島委員	子どもさんで自分の住所の漢字が書けない、今は検索すると出てきますので、書けなくなっています。書くことは大切だなと感じています。 AI の関係ですが、AI を自分の部下と捉えて教育に取り組んでいくという考え方に触れる機会があり、面白いなと感じました。AI も使い熟せるようにならないといけませんね。 リアルな体験というのが根本になります、体験できるのは小学校中学校ですので、大事にしていかなければなりません。 ありがとうございました。 本日は、以上とさせていただきます。 （１０：４５終了）